

「(仮称) 町田市里山環境活用保全計画」の策定に係るアンケート調査結果及び計画の策定について

1 計画策定の背景・目的

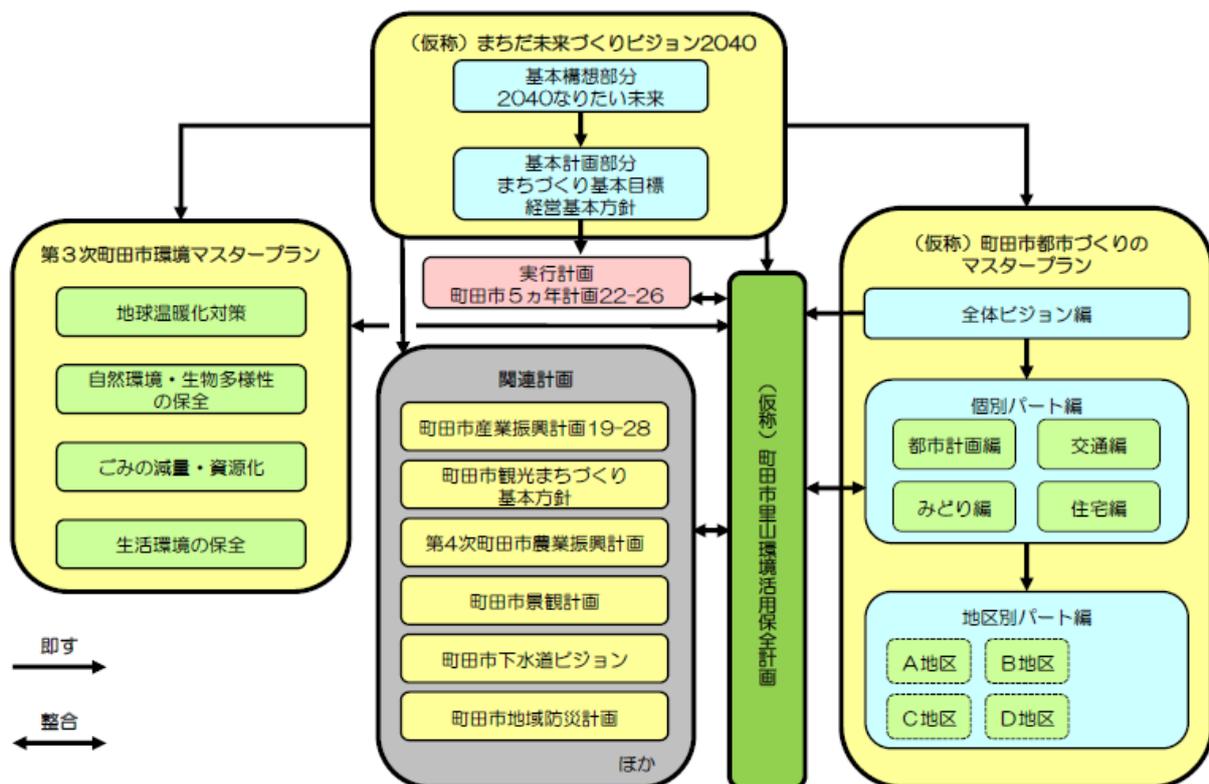
これまで、「町田市北部丘陵活性化計画（基本計画・実施計画）」及び「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン（行動計画）」に基づき、北部丘陵地域の特化した里山環境の再生・保全を推進してきました。

しかし、多摩都市モノレールや小田急多摩線の延伸、SDGsへの対応や新型コロナウイルス感染症拡大をはじめとする社会環境の変化を受け、良好な里山環境を町田市の貴重な資産として活かしていくことが必要です。

こうした環境の中、北部丘陵をはじめとする市内の里山環境を活用し、持続可能な保全に繋げるため、新たに2022年度から2026年度までを計画期間とする「(仮称) 町田市里山環境活用保全計画」を策定するものです。

2 計画の位置付け

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン2040」及び「(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン（全体ビジョン編）」を受け、里山環境の活用・保全を推進するための実行計画とします。



3 住民・来訪者アンケート調査（別紙参照）

(1) 住民アンケート調査の主な結果

ア 里山環境が今後も貴重な場所としてあるために重要なこととして、「里山環境の活用と都市基盤の整備を並行して進めた方がよい」という意見が46%で最多。

イ 里山環境を保全・活用するにあたって、北部丘陵以外のエリアの人や団体が参画することについて、73%が「賛成」・「やや賛成」。

(2) 来訪者アンケート調査の主な結果

ア 来訪の主な目的は「散歩・散策」が43%で最多。次いで「運動・スポーツ」が16%。

イ 今後、里山において地域の住民・団体の活動に対する関心や行動の状況について、「地域の住民・団体の活動をよく知らないが、なんらかの活動に関わりたいと思っている」が34%で最多。

4 計画策定の進め方について

(1) 里山の将来像（案）

市内の里山の将来像を「みんなで活かし、守り支える、まちだの里山」とし、貴重な資源である「まちだの里山」をそこに携わる全ての人たちの手で「活かし・守り・支え」将来に引き継いでいくことを目指します。

(2) 計画策定体制

計画策定の検討には、以下の委員で構成する計画策定検討委員会を設置します。

【学識経験者】

ア 学識を有する者（農業・都市計画・観光） 3人以内

【町田市住みよい街づくり条例に基づく街づくり団体】

イ 田中谷戸街づくり協議会の代表 1人

ウ 小山田中部街づくり協議会の代表 1人

エ 小山田大龍地区街づくりを考える会の代表 1人

オ 特定非営利活動法人小野路街づくりの会の代表 1人

【地域の団体】

カ 町内会の代表 5人

【観光・農業・産業に関する団体】

キ 町田市観光コンベンション協会の代表 1人

ク 町田市農業協同組合の代表 1人

ケ 株式会社町田新産業創造センターの代表 1人

(3) スケジュール

2021年 5月	計画策定検討委員会設置
2021年11月	計画案完成
2021年12月	パブリックコメント
2022年 3月	計画策定・公表